本紙は女性による平和と平等を推進します

回覧 □□□□□□□□

発行所
㈱全国婦人新聞社
〒160 本社　東京都新宿区西新宿3−7−28　宝幸西新宿ビル
電話03 (343) 1846代表
振替口座　東京　172320
〒543 支局　大阪市天王寺区勝山通2−202
電話06 (771) 7415

全国婦人新聞

〜ご購読料〜
1年　3,000円
(郵送料とも)
現金・切手・振替で前納
(月3回発行)
10日・20日・30日

長い目でビジョンを育てる
興銀

紙の博物館

身近かで実のある学びの場

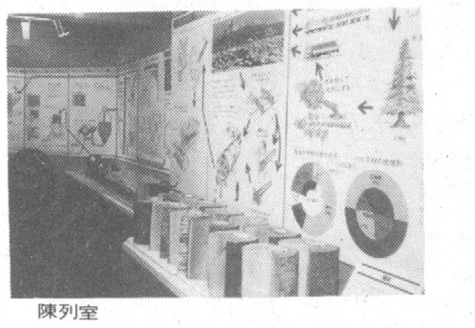
国電の王子駅南口を降りると、すぐ前を都電が走っている。懐かしいチンチン電車の線路をこえると、もうそこが紙の博物館の門。前庭の向うに二階建てのこじんまりとした建物がある。広い前庭には、むかし、製紙原料を運んだ蒸気機関車だの、破布蒸煮釜（紙の原料に木が使われる以前は、ボロ布が重要な原料だった）だの、製紙に関係ある〝骨董〟的記念品が並ぶ。植えこみの木や石も、紙に関係するものばかり。博物館に入る前から〝紙の歴史〟がくりひろげられる。

展示は、紙の製作の工程、紙の生産の現状、歴史、機械の模型などが約半分。約半分は、わが国伝統の和紙と、紙でつくった芸術品の陳列室。実際の百二十分の一の大きさで、すべて紙でつくった姫路城の模型。たった一枚の紙で折った一一〇羽の折りづる（一枚の紙で折りこんで行く。一一〇羽が全部つながっているわけ）など驚嘆するような作品が――。

この博物館には年に千人から、外人客が訪れるがそのほとんどが和紙に興味を持っての来館という。紙に関係する本・五千冊をもつ図書室もある。

向って右に黒く見えるのが破布蒸煮釜

前庭の植えこみ。この石や木の一つ一つが紙に関係あるもの


陳列室
紙の製造工程、原木が陳列されている

和紙の芸術品など

世界に一つ、質問大歓迎

この建物は、旧王子製紙王子工場の跡地に建つ。昭和二十四年集中排除法によって王子製紙が三社に分かれた時、旧王子製紙の持っていた資料を生かすために、製紙記念館として昭和二十五年設立。二十六年博物館となる。製紙会社や紙の用品製造会社、紙販売店などからの金で運営されている。約九千九百平方㍍と手狭まなので資料の八%しか展示出来ないのが悩みのタネ・「一部屋だけは毎月展示がえしていますが、それ以上のことをする人手もなくて――。貴重な資料を死蔵しておくのももったいないですから、紙に関することなら何でも気軽に相談してください、とPRしています」（野口館長談）。なるほど、受付のところに、何でも聞いてくださいという貼紙がある。疑問や調べたい内容によって、しまってある資料も見せるそうだ。図書室も予約なしで、誰にでも公開している。

「紙専門の博物館は全国で、いや世界でもここだけ。紙は文化のバロメーター。文明社会で紙のない生活はもはや考えられません。ぜひ紙に関心を持ってください」と野口館長はいう。明治三十三年、日本の紙の総生産高は三万五千㌧だった。昭和十五年は百五十万㌧。そして現在は――。なんと、千八百万㌧。この膨大な紙の四五%が板紙（ボール紙）で、おおむね段ボールになる。五五%が、いわゆる紙製品。この五五%の内訳は、新聞用が一五・一%、印刷用紙が一八・八%と半分以上を占める。これだけ大量に使う紙だが、問題も色々ある。まず原料問題。日本は木材が少なく、大量の輸入が必要とされる。もっとも窮すれば通ずで、近ごろ、古紙の再生技術が進み、インク抜きがうまく出来るようになり、新聞用紙も古紙から出来るようになった。いま、古紙の利用は年に八百万㌧まで行っている。また、紙の生産には多量のエネルギーがいる。紙一㌧作るのにドラム缶三本の石油がいる。乾かすのに多量の燃料を必要とするからだ。また、〝ヘドロ問題〟などで知れわたった公害の問題があり、これの防止に多額の金がいる。問題点を抱えながら、紙の需要はますますふえるだろう。

一方、ますますファンがふえる和紙だが、現在残っている職人は六五〇軒、生産高年に二千㌧。最盛期は六万五千軒あったというから、伝統を絶やさぬことに窮々という現状のようだ。

〝紙〟は好きになると病みつきになるという。この博物館の職員自体、製紙会社にいて紙のファンになり、退職したあとも好きで……という人が多い。ボランティアでやっている人もいる。来館したら、ぜひ遠慮せず質問して、館員の知識やしまってある資料を活用してください、と館長は何度もいっていた。

◇　◇

「紙の博物館」東京都北区堀船一の一の八　☎〇三　九一一　三五四五　▽開館時間　午前九時半～午後四時半。▽休館　月曜日、祝日、年末年始。▽入場料　無料（団体であらかじめ申し込めば、製紙映画を上映する）

和紙を作っているさまを示す人形、一階のホールに陳列してある。このホールは映画やスライドの上映、講習会等にあてられている。

女性初の学術会議会員

猿橋さん〝先兵に〟と

日本学術会議、第十二期の新会員がこのほど決まったが、猿橋勝子博士（元気象研究所部長、地球化学）が当選、女性初の学術会議会員が誕生した。国会議員等でも戦後第一回の選挙から女性が選出されており、〝女性初〟などと聞くと驚くが学術会議では、女性が立候補したことさえはじめて。女性の有権者の数が少なく、全有権者（約二十二万人）のわずか三%。立候補してもだめだろう、ということだったらしい。猿橋さんは、落選しても〝女性科学者の先兵に〟と立候補を決意したが、男性からの激励も多かった。

結果は第四部（理学）で千二十五票獲得、第六位当選。国際婦人年後半に入る年に女性科学者の代表としての活躍が期待される。

猿橋勝子＝昭和十八年　帝国女子理学専門学校（現・東邦大理学部）卒。中央気象台研究部に勤務。雨やチリの中に含まれる放射性物質の微量分析で世界的な評価を得る。三十三年、「日本婦人科学者の会」創設。今春、気象研究所地球化学研究部長を停年退官。その際の友人、先輩らからの記念品代を基金にすぐれた業績をあげた婦人科学者に「猿橋賞」を贈ることにする。

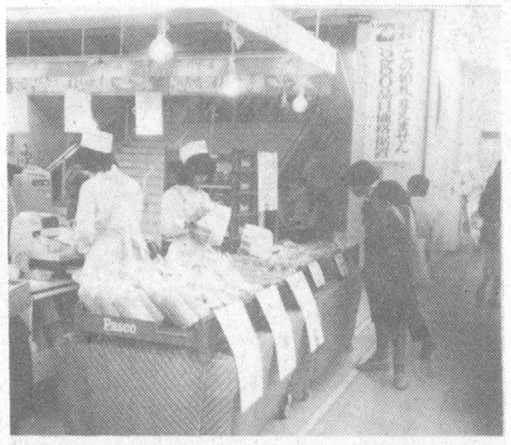
パートは女性にとって!?

問題点をさぐる

働かざるを得ない主婦

企業は―願ってもない

年収70万円の壁はずせ



「パート求む　交通費支給　時給五〇〇円」「食料品販売員　時給五八〇円、前10～18時　時間相談応ず、長期働ける人…」町や新聞で目につく女性の求人広告である。パート、パート、パート。パート労働者は年々ふえつづけている。労働省の発表した「五十五年版婦人労働の実情」によると就業時間三十五時間未満のの女子雇用者の数は二百三十六万人で、これは三十五年の五十七万人に比べ、四倍以上の数という。個人商店などのパートの場合、数がつかみにくいものだし、またスーパーなど大どころにつとめている人の場合、就業上の〝身分〟はパートでも、一日八時間週六日、ふつうの従業員と同じ労働時間働いている人もいるというから、実際のパート労働者の数はこれ以上になるのではないか。〝パートの低賃金は正規職員の労働条件向上の足をひっぱるもの〟〝生半可な気もちの小づかいかせぎは、子どもの教育上にも悪影響〟など論議はかまびすしいが、実際問題としてパートはふえる一方だ。ある新興団地の新設小学校で、開校早々PTAが出来たが、クラスで委員選出をしようとしたら、一クラス四十人中、働いていない人は八人しかいなかった。働いている人はほとんどパートだった……とか。何と中傷されてもマンションや家を買えば、ローンに追われて主婦も働かざるをえないし、三十の半ばをすぎた主婦が働こうと思ったら、パートしか職がないのも実情だ。激増するパートその問題点をさぐってみた。

労組もできた　当面は福利を

○…全日自労横浜地区協議会にパートの労働組合が出来たという話を聞いたので尋ねてみた。「組合というほどのものではなく、まだメンバー四、五人です。個人商店のパートなどで働いていて一人ぼっちで寂しい、不満は多いがどうしていいかわからない、という人のために〝友の会〟をつくって、まず話しあおうとよびかけているのですが……」（地区協　大場氏の話）。メンバーの労働条件はよくない。個人商店の販売員か飲食店の給仕が多いが、大体時給四百五十円くらい。だが、働く方も、学校の授業参観の時は休みたい、五時までには家に帰りたい、など〝条件つき〟なので、雇用条件の向上を交渉しにくいという弱みがある。また、時給が上るのはうれしいが、上りすぎて、年収七十万円を超えてしまうと、夫の扶養家族としての控除がうけられないので、大分損になる。かえってばからしい、という。

家庭の制約もある。検査技術のパートで時給七百万とっている女性。年収が七十万円をこえそうになると夫との間がゴタゴタする。夫は申請などでめんどうなのはゴメンだという。金のことでなくても、家事をおろそかにしないという約束でパートに出た人は多く、一刻も早く家に帰りたい希望と、かきいれどきの夕刻に働いてもらいたい店とのズレがあり、やむなく多少残業して家庭争議も――。

では、こうした〝問題〟を抱えているパートの組合なり友の会を作って何が出来るのか――。大場氏は「話しあい、学習、そうしたことで、婦人労働、その中でのパートの位置をつかみ、長い道のりではあろうが、パート労働者の労働条件、地位の向上をめざし、その方策をつかむ。当面出来ることは、福利面の向上で〝団体生命共済〟などを考えている。」といっている。不当解雇などの時は、全日自労で応援し、退職金などで成果をあげたこともあるというが、〝闘う〟相手も零細な小売り業では、交渉にも限度があるだろう。全日自労の本部では、税金の年収七十万円の壁を何とかしたい、せめて百万から百二十一万円に引きあげさせたいと考え、統一労組製などで、話題にしているという。これ婦人団体なども協力して、これを統一要求にしたいというが……。

〝ゼンセン〟は迎え入れ考慮

○……パートの中でも圧倒的に多いのは、スーパーで働く人びとだろう。はっきりした人数はつかめないが、パートと正規従業員の女子を比べた場合、パートの方が、二倍から多いのではないだろうか。こうした大手スーパーの従業員組合の多くが加盟しているゼンセン同盟では九年ほど前から、パート労働者も本採用と同様に組合員として迎え入れようという方針をたて、加盟労組によびかけている。「パートの労働条件の悪さが従業員の足をひっぱっている。しかし、パートがふえて行く傾向を止めるわけにはいかない。この安い労働力で企業は成り立っており、しかも、短時間で束縛されないという労働を家庭婦人が望んでいるのですから。私どもの方針としては従業員と同じく組合に迎え入れ、その中で問題点をさぐり一つ一つ解決し、パートの労働条件を実質的に上げて行くことです」（ゼンセン同盟菅井組織局企画部長の話）。

○…ゼンセン同盟は、昨年五月から一ヵ月にわたって、一橋大学津田真澂教授研究室に委嘱して、ダイエー、イトーヨーカドー、ニチイ、長崎屋など、大手スーパー十社（約五十店舗）で、直接個別調査方式で、チェーンストア労働者の実態調査をしていたが、ことし七月、結果を発表した。この中で、パートタイマーは、既婚有夫者だけで三〇〇一人の回答を得ており、サンプル数も多く、貴重な意識調査である。この調査からいくつか問題を拾ってみよう。

正社員より意欲的

○…この調査で回収されたパートの回答は三七五〇人。この中で既婚有夫者が三〇〇一人（約八割）だったわけだが、いいかえればスーパーで働くパートの約八割は、こうした〝奥さまのアルバイト〟ということだろう。年齢は八割以上が三、四十代。中でも三五～四四才が五四%と半数を超える。この店に勤める前に何をしていたかは『家事に従事』が六一・六%、ついで『他の店や他の会社でパートをしていた』が二〇・七%。正規従業員からパートになった人は一〇・五%にすぎない。パート婦人の夫の職は四分の三がサラリーマン。夫の月収は二十万～二十五万円が二五・九%、十五万～二十万円が二五%で一番多い。また、三分の一が住宅ローンの返済中である。子供は五七・二%が二人。末の子が小学生という人が三六・四%と一番多い。夫と同居していない人が七四・三%。つまり平均的なパート婦人は、核家族で子供が小学校に入って多少手が抜け、自宅を持ったがローンできゅうきゅうのサラリーマンの妻ということになる。

○…パートの在職年数は、一年未満二五%、一～二年二〇%、二～三年一四%、三年以[illegible]一%。同時に調べたスーパーの女子正社員の調査では、三年[illegible]五%。六年以上の長期勤続者は一割少々にしかすぎない。とするとパ[illegible]うちにやめたい』七%、『一年は続けたい』九・一%、『二～三年』二二・五%、『四年以上』一九・四%、『わからない』三七・七%。これを年齢階層別に見ると、年齢が高くなるにつれて長くつづけたい希望が強い。在職年数別に見ても、在職期間が長いほど長く働きたい意見が強い。これを正規女子社員と比べると、『結婚したらやめたい』二六%、『子供ができたらやめたい』一三・五%、「結婚しないがすぐやめたい」二二・四%で『ずっと働きつづけたい』はわずか一割ほど。正規社員よりパートの方がよほど勤労意欲がありそうである。仕事も、パートと正社員が一しょに働いていることが多く、特に差はなさそうだ。これを賃金で見ると、初任時給額の平均が四〇七・九円。勤続が長いほど時給はふえるが七～十年勤続者の平均が四九四・七円。平均月収は、時給の差、労働時間の差でちがうが、大部分が五・八万円～七・七万円の間である。年収は平均で七十二・六万円。最低が在職二年未満の四十九・五万円、最高は在職七年以上の九十二・八万円であった。女子正社員の場合、八十万円未満というのはたった八・四%。年収百五、六十万円くらいの層が一番多い（稀だが二百八十万円以上の人もいた）のに比べると差は歴然とする。

○…一方、パート労働者はどのくらい働いているかだが、週当り五日働いている人が三七・一%、六日働いている人が五八・二%いた。また、一日あたり労働時間は六時間以上が七六・八%もあった。つまりパートタイマーの七三・九%が一日六時間以上で週五日以上労働していることになる。これは普通の勤務者とほとんどかわらない労働実態といえる。在職年数の長い人ほど働いている時間も多い傾向である。ヨーロッパのパートの場合、六四・四%が週二十四時間以下、三二・三%が二十時間未満だそうである。わが国のパートは仕事の内容も勤務時間もフルタイマー的性格が強い。

○…フルタイマーとちがうといえば勤労時間帯で、正午から午後一時がパートのピークで、大部分が午前十時から午後四時の間に働いている。午後五時以降に残っているパートは二七・二%にすぎない。スーパーの一番忙しい時間は四時半から閉店時の六～七時ごろまで。この時間にパートがいなくなるのだ、夕方働けるパートには割増賃金をつけ、ほかに高校生アルバイトを雇うのが常識。一番忙しい時間に帰宅したいというパートの側の事情が、雇用条件の向上をさまたげている。

○…パートは税法の扶養控除の限度額年収七十万円を超えるのをいやがるといわれる。事実、七十万円を超えそうになると休んだり、ボーナスはいらないというタイマーもいた。が、この調査で、七十万円を超えないように努力したのは十二・六%にすぎない。一たん七十万円の線を超えてしまうと、所得税を払っても収入が多い方がいいということになるようだ。

○…パートに出た目的は①生活のため（住宅ローンの返済、子供の教育費、生活費のたし、など）が四九・四%②社会参加二三・六%③レジャー費用かせぎ　一六・八%④なんとなく七・八%、多くの大手スーパーは、パートの中の優秀な者に登用制度を設け、特別社員や準社員にしている。社会参加目的でパートになりたい人など大いに登用されたいだろうと思うが、このアンケートで登用されたいかと聞いてみたところ、肯定の答は約二〇%、『なりたくない』人が七五%もいる。どうして登用されたくないか、理由のトップは『家庭の事情でそんなに会社にしばられることはできないから』（各年齢層とも六〇～八〇%）、ついで『そんなに魅力のある制度ではない』『そこまで一生懸命働くことはない』が各一〇%。どんな仕事をしたいかの設問にも七割が今のままでよく、仕事については〝楽しい〟と答えた人が三九%に上る。

○…仕事は楽しく、〝しばられる〟よりは低賃金でも気楽なパートの方がよく、そして結構長時間働いてくれる……。全く企業にとって好都合なパート労働者の実態だ。パート労働者が大幅に増えたのは石油危機以後である。不況期の〝減量経営〟で安いパートがどっとふえた。安い上に勤労意欲も高い良質な労働者だった。今後、パートはふえつづけるだろう。

この調査で見られるように長く働きつづけている人ほど勤労意欲の高い実情を見ると、一部のスーパーで見られる採用の際の年齢制限は無意味といえそうだ。

コペンの旅　思い出すまま　⑨

—— 黒川万千代 ——

保父さん大繁盛！

徴兵免除の特典もあり　英国からの志願者まで

ストックホルム郊外の衛星都市にある、公立の保育園を訪ずれた。ストックホルムの王宮前からタクシーで約四十分なのに、森の中にいるような感じだ。子供が二、三人ブランコにのっている。若い男性にぶら下がっている男の子が二人。広い庭に子供はそれだけ。夏休みだと一人合点し、さあこの男性は何だろう。「僕のクラスを見てください」あれ、この男性は保母さんじゃない保父さんらしい。案内された部屋には丸いテーブルにイスが六個。片側にキッチン。反対側に名前カード、これも六枚。「クラスの子は何人…」「六人です。二歳から六歳。」どのクラスも、五人から六人だから、庭に子供がいないのもあたり前だった。

それにしても保父さんが多い。職員の半分は男だ！これは、年々未婚の母が多くなるので、子供たちに、父親の役割を教え、家庭の味をわからせるためという。いろいろの年齢の子でクラスをつくるのも、兄弟のよさを教えるためとか。保父の役割が重要視されるので、恩典も多い。スウエーデンの若者は二年間の兵役義務があるが、保父か消防夫か精神病院の看護夫を二年半つとめると兵役免除になる。軍隊などまっ平という青年にはうってつけだし、この二年半の間に学校に通い、正式の保父の資格をとり、そのまま勤めることも可能なので、若い人の人気抜群という。ポパイのような体軀の堂々の保父さんが多いから、力仕事や大工仕事は朝めし前、一人の保父さんは机、イスからブランコまで私の手づくりです、といばってみせた。

リチャード先生はイギリス人。イギリスでは保父がなく、保父になりたいばかりにイギリスからスウエーデンに来たという。「私の部屋に来てください。日本のブラインドがあります」と得意そうにいうので何だろうと行ってみたら、竹の〝すだれ〟だった。リチャードさんは宝ものののようにすだれを広げ、自慢そうに見せびらかしながらいうのだった。「日本は熱帯植物の竹が生え、雪が降ってスキーが出来る不思議な国だと子供たちに話してきかせているんです。いつか彼らは日本を訪ねることでしょう。」

（おわり）

自慢そうに〝すだれ〟を広げるリチャード先生

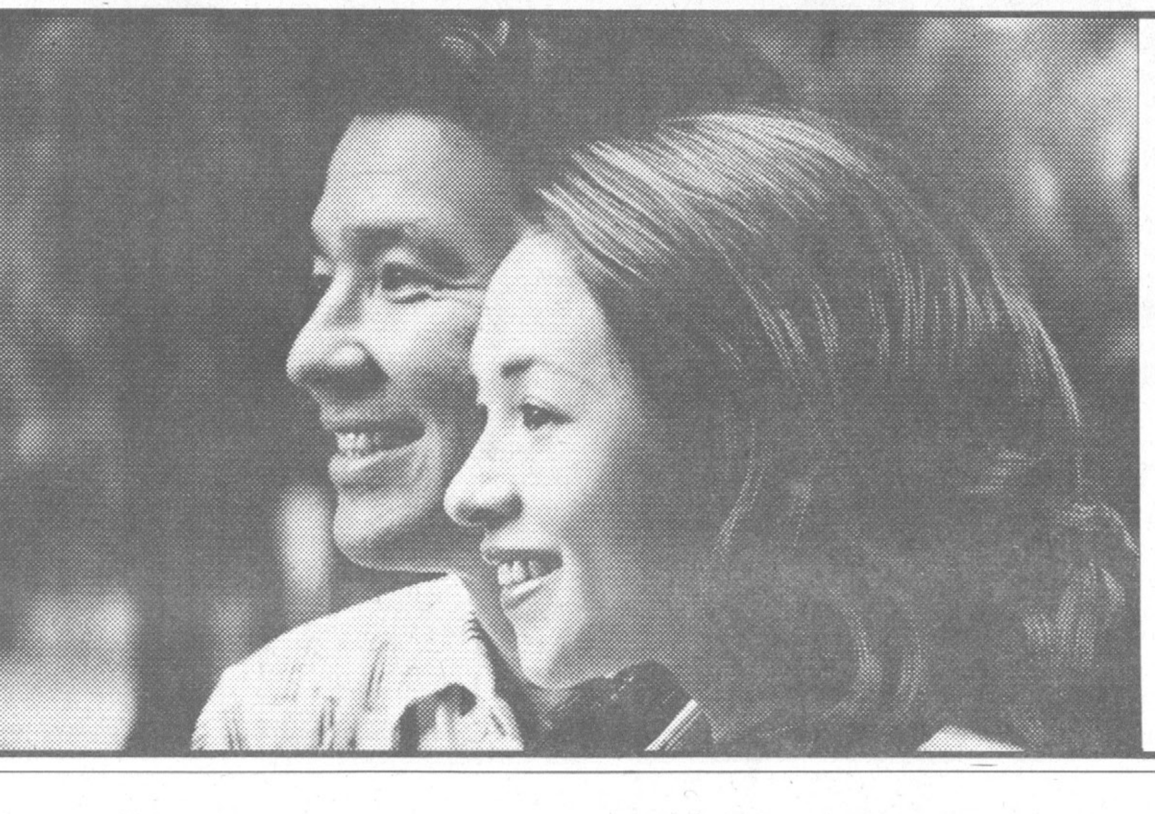
婦人手帳

★★★　それまで心理的な面も含めて、どんな葛藤があったかは知らないが、別々の部屋に寝ている両親を金属バットで殴り殺し、しかもさしたる反省の色も見せない。どういうことなのだろうか。川崎市のエリート家庭に起ったこの惨劇は、本人が人間離れしているのか、現代という時代そのものが子供たちをそうさせてしまったのか。不可解であり、それだけにこれからの世の中が空恐ろしい感じになってくる。今朝のテレビは、最近とみにふえている校内暴力を取上げていたが、あの中学生たちの猛々しい言葉はむしろ疎外された者の悲鳴と聞えたがどうだろう。

★★★　「誰も分ってくれない」この気持が往々にして人間を凶暴にする。一寸の虫にも五分の魂という。それを無視されてバスに放火し、関係ない人を死傷したあの新宿の事件、その辺と現代との関わり合い、そして金というか生活というか、あり余って、逆にモノ優先となった価値観。もうかるから医者にしよう。大会社に入れるためには有名大学にの風潮――幼稚園の時から〝ハイお勉強〟では子供はたまんないよ。人にはそれぞれ向きがある。全部が王選手や原君になれないように、野球にしかあるいは職人、芸人にしか向かない人もいる。それに東大へ行けといったってムリなのだ。今度の川崎の両親殺しも、キャッシュカードを盗用し、ウイスキーを飲んで蹴飛ばされたからではなく、カギは「お前には大学はムリだな」の冷い一言ではないか。

★★★一体全体、エリートってなんだ。エリートでなくて総理大臣になった人もいるけれど、世間一般のウサギ小屋に住み、多くもない収入で目いっぱい働いている大多数の国民はエリートじゃない。永井荷風の「すみだ川」の最後のくだりを思い出した。俳諧師松風庵蘿月宗匠のオイの中学生長吉は芸事の素質はあるが学問は嫌い、役者になりたいという。あげく落第。大学にやろうと思っている母の頼みで、宗匠は心ならずも意見する。幼馴染みのお糸が芸者になったこともあって長吉は世をはかなみ、出水のあった日に泥水の中を歩いて発熱入院。様子を見に来た宗匠はガランとした長吉の部屋で偶然、一通の手紙を見る。

「今は自殺の勇気もないから病気でも……」。宗匠は心中に、長吉・お糸の姿を描き、きっと死んでくれるなと祈り「長吉安心しろ乃公がついているんだぞ」と心に叫ぶ。この名作、一度お読み下さい。



通帳のなかで迷っているお金、
定期にしてゆとりをつけましょう。

ふだんの暮らしに役だつ
使いこなしたい、定期です。

毎日の暮らしに必要な額だけは、普通預金に預けておいて、残ったお金は総合口座の定期預金にしておく…。まとまった資金づくりの手がかりができます。コースは2年・1年・6ヵ月といろいろ。思わぬ出費が生まれたら《協和》の自動融資で総合口座にお預けの定期預金の総額の90%、最高100万円まで自動的に借りられます。いま通帳の中で迷っているお金は、いざというときにも役に立つ総合口座の定期預金にしておきましょう。ふだんの暮らしに弾力がつきます。

使いながら貯めて、貯めながら使う。
総合口座の定期預金

協和銀行

ことしの活動を締めくくる

婦人問題を考える集い神奈川県大会

〝実践の五年〟を確認

働く主婦、家庭の主婦の連帯

神奈川県の、昭和五十五年度「婦人問題を考えるつどい県大会」が十二月三日、神奈川県立県政総合センターで行われた。同県ではことし九月から十一月にかけて、県内を八つの地区に分けて、各地区ごとに婦人問題を考えるつどいを開催してきたが、これを集大成し、婦人の十年後半に向けて——婦人問題解決のために今問われているもの——を考える神奈川県の婦人の大集会。県下から約四百人の婦人が集まった。壇上から偉い人が一方的によびかける集会にはしたくない、ということで、ホールの演壇は使わず、会場中央に向けて囲むように席をつくり、和やかに話しあう雰囲気で会が始まった。

長洲知事のあいさつのあと、コペンハーゲンの婦人世界会議フォーラムに参加した県代表から問題提起、各地区の婦人問題を考えるつどいからの総括と問題提起があり、そのあと論点を「性別による役割分担論の見直し」「女性の自立と社会参加の問題」「女性どうし、そして男女の、地区から国際へと広がる連帯の問題」にしぼって、助言者の青木やよい氏（評論家）をまじえて話しあった。討議の内容を紹介すると

【役割分担の問題】家事労働の評価の問題などが出たが、青木氏から「一口に家事労働といっても妊娠、出産、授乳といった女でしかできないこと、また病人、老人の看護といった部分と、毎日のいわゆる家事と分けて考えるべきだ。歯や口を磨くのに人に頼む人はないのと同様、毎日の食べものを、食べる人（男でも女でも）が作るのは当り前。デンマークでは男も家事をするのが日常のことになっている」と指摘、これにこたえて、わが家では男性も平等に家事をしているという実践例が報告された。

【自立の問題】「働く婦人がふえたが、パートしかなく低賃金で働かされている」という現実、「金さえ取っていれば自立か」「こういう催しには職業婦人は出られない。自分は専業主婦で社会参加しているが、それをまわりは精神的自立とみてくれず、暇だからという目でみられる」と、何が自立かで論議が起こる。青木さんの意見は「日本の場合、女子が再就職しにくいという特殊な条件がある。これは、女は家にいるべきものだとの社会通念からくる。パートが低賃金体系をつくっているということはたしかだがパートに出ることが社会への接点となり、その中で矛盾を感じることもある。また、経済的自立だけが自立ではない。男性の中には、日常的自立がない人が多い。家庭にいるから自立してないとはいえない。家にどういうかたをしているかが問題だ」といい、会場の共感を得た。さらに育児休暇の問題が出、スウェーデンのように、夫と妻と両方どちらでもとれることが理想だと確認しあった。

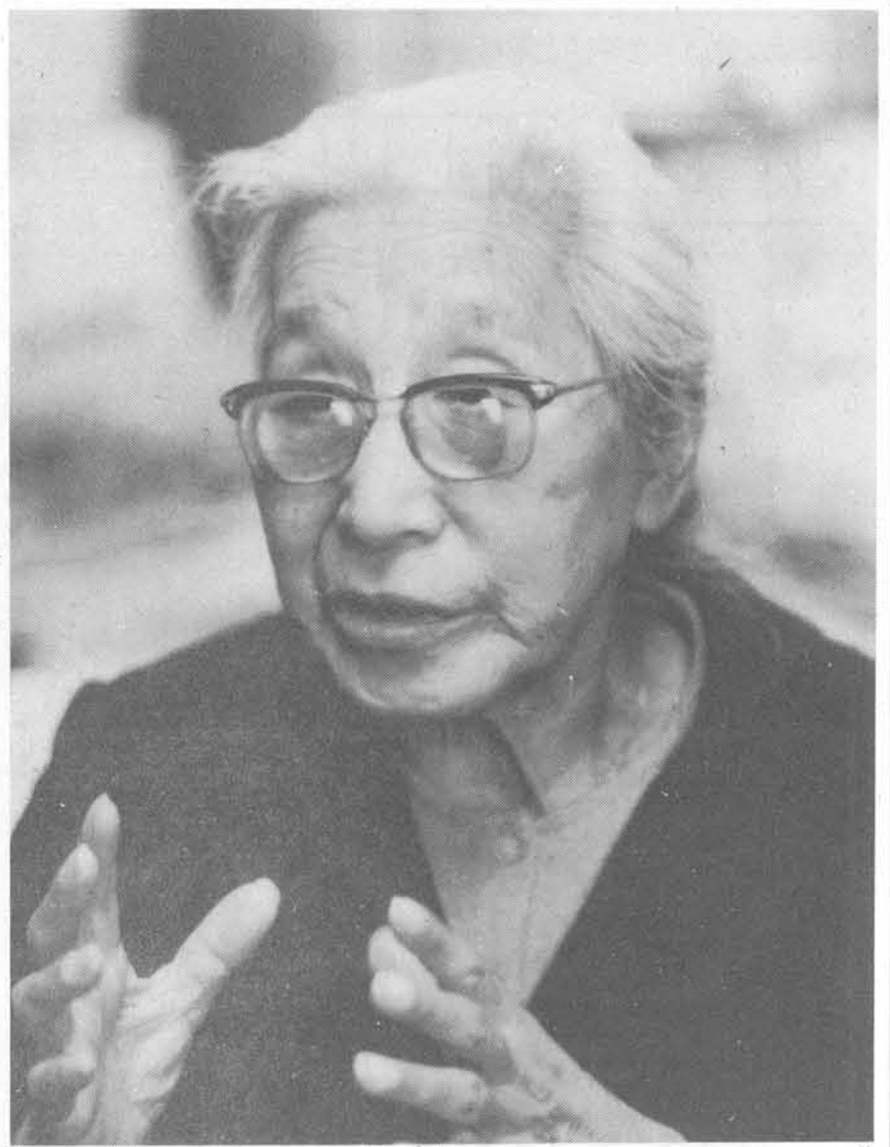
婦人問題を考える集い神奈川県大会々場

昭和55年度 婦人問題を考える
婦人の10年後半に

【連帯の問題】地域で活動している人びとから具体例が出、地域の活動に男性こそ参加しないと、の声。消費者運動をしている人から、働く主婦の方が時間がなくて、添加物の多いのを食べていることが多い。消費者運動になぜ働く主婦が加わらないか——互いの非難でなく、働く主婦と家庭の主婦と女性どうしの連帯をはからなければ——という意見。小都市の社会教育課員という男性からも発言があり、「地域の中で婦人の発言力を高めて行っても、それだけでは挫折する。働きの場で婦人の地位を高めないと。女性自身でそれはかちとらなければだめだ」

こうした討論の中で、最後に、婦人の幸せは平和がなければ守られない。神奈川県で平和宣言を出してほしいという要望も出た。青木さんから「大部分の主婦は平和といってもピンと来ない。暮らしを見直そう。暮らしの一つ一つが平和につながる」とアドバイス。

最後に婦人の十年の折り返し年に立って、後半の五年こそ、実践の時代、と確認して閉会した。


栃木県地域婦人団体協議会長　甲斐　喜美さん

ずーむ Zoom up あっぷ

持てる力を引出す

稀にみるマトメ役

登山で鍛えた足が支え

覚えておいでだろうか、ことしのあの「栃の葉国体」のクライマックス——

澄んだ秋空の下に、栃木県婦人一〇〇〇人による踊りの輪が競技場いっぱいに広がり、息の合った踊りぶりは、堂に入ったもので、スタンドからは感嘆の拍手が鳴りやまなかったものだ。きのう、きょう即席につくりあげたものではあるまい。長い月日を費やして練習を積み重ねてきたものであろう。その指揮をとったのが、この甲斐喜美会長である。

「いやー、まったく大変でしたヨ。老齢の方では体力的に続かないだろうと、出場者を五〇歳までに限ったのですが、若い方は子供がいたり、外で働いたりで時間的に余裕がなくて、まず人が集まらない。新婚の方などは練習中に妊娠して出場できなくなったり、いろいろハプニングもありました。練習は、小グループを作って、まず踊りをマスターさせる。毎日、毎日同じことの繰り返しですから、止めたいという人が出て来ましたが、国体に出られるのは一生に一度のことだからとなだめたり、おだてたりして続けてもらったんです。でも、踊りをマスターし、一堂に集まって練習を始める頃には、私たちより一生懸命でしたヨ」

責任者として、一〇〇〇人の気持を一つの目的に向ってまとめあげたという満足感が、甲斐会長のふくよかな顔をよぎる。が、また指導する側の難しさを含んだ言葉でもある。

「そうです。ただ上の方から掛け声をかけていればいいってことじゃありませんからね。栃木県下には一五四の婦人会がありますが、県北、県南、足利ほか、地域によって活動する内容、事情が違いますから……。指導する立場にある人は、地域の実情を調査し、内情を完全に把握してから行動しなければ、本当の指導にはならないということですよ」

情熱を燃やし婦人たちを指導してきた三十数年の間に掴み得た、一つの結論だ。

終戦までは女学校で教鞭を取っていたという甲斐会長、戦後、アメリカさんがやって来て、県の婦人教育係にと任命されて、この道に入ったんですという。

アメリカさんの命令は絶対……という不満はあったが「自ら学び、自らの力で動きましょう——みんな自主的に考え行動しなさいというアメリカさんの指導は、それまで男性に頼って生きていくことのみ教えられて来た女性にとって、非常にいい体験だった」と当時をふりかえる。

まず最初に取り組んだのは男女平等をすすめる運動と新憲法を学ぶ学習会だった。しかし、女性が人前で自由に物が言える時代になったからといって、急にしゃべれるものではない。「会がシラケますから、仕方なくサクラを作って質問をさせて、会合を盛り上げる演出などもやりましたが、今はどうですか、質問が多すぎて打ち切る方が大変なんですヨ」楽しそうに目を細める。

自分の疑問や主張を相手に伝える。それは人間としての基本であり、最も簡単な行為であるにもかかわらず、今までの教育、慣習によって、第一声を発せさせるまでに長い時間を必要としたという。

甲斐会長の活動を大いに助けてくれたのは、学生時代登山で鍛えた足だった。「着物のすそをハショッて、ワラジばきで登ったものですヨ。那須の山はほとんど登っていますヨ」と、ご自慢の足も八〇歳を越えた最近、神経痛で痛みがち。「そろそろ引退させて欲しいというのですがなかなかやめさせてくれない」という婦人運動が、人に頼られているという責任感が甲斐会長の若さと健康の源とも言えるのではなかろうか。

「栃木県人の性格は地味です。だから活動の方法も関西の様に派手ではありませんが、やり始めたらとことんやり抜くねばり強さがありますので、そういった性格を生かす指導を……」と、柔らかいが若者に一歩も引けを取らぬ、熱のこもった言葉が続く。

ベビーコンサルタントの目

岡本　初子

ほほ笑ましい若い父親

エリート型はとかく!?

年末に入って土、日曜日のデパートは家族連れでごった返しています。お歳暮とは関係ないベビー用品売場も、子どもたちの冬仕度をする家族連れで賑わっています。

若いお父さんは、ほんとうに家族奉仕をよくするなあ、と二十年前のわが家に比べて、ついトシくさい感慨にふけってしまいます。そして汗を一杯かきながら、歩きはじめた赤ちゃんを追いかけたり、抱っこしながら、妻のショッピングの終るのを待っている夫族を見ながら「で……この人たちは国立大学出身じゃあないのかしら?」と、まことに〝偏見に満ちた〟思いにかられることがあります。

先月末、川崎市で二浪の次男が両親を殺すという事件が起りました。同年代の子どもを持つ者にはまことに衝撃的な事件ですが、友人たちと話をしてみると、このような事件は決して他人ごとではなく、いつでもわが家に起り得ることだという結論が出るくらい身近かなものです。

十二月二日の朝日新聞〝ちょっとひとこと〟欄にも四十六歳の杉並区の主婦からの、わが家にも同じようなことがあるという切実な声がのっていました。

この中でとても気になったのは、ここのご主人は旧海軍兵学校から国立大を卒業された方だそうですが、奥さんに「（息子に）二浪もしているんだから、来年もいい学校をねらうよう伝えておけ」といわれた、ということです。

頭に浮かび上ってくるのは、おれの息子なら頭が悪いはずはない、という思い上りの強いエリート男性です。さらに私流に受け止めれば〝二浪もするほど成績があがらないのはお前の育て方が悪かったからか、頭の悪いお前に似たかのどちらかだ〟という、大きくはないけれど、ネッチリとからむ声が聞こえてきます。

教育ママとかママゴンとか、お母さんたちがいわれだして何年くらいになるでしょうか。実際、そう呼ぶにふさわしいお母さんが多いのも否定できません。しかし、私にはむしろその陰にいるお父さんたちこそ、子どもの教育について、もっと真剣に考えるべきではないかと思えてなりません。

特にインテリお父さん、エリートお父さんに、教育についての無責任さは大きいように思うのです。頭のよい男性にとって、わが子の成績不振は、不思議で不思議でたまらないでしょう。わかることは、すべてを任せていたはずの妻の教育の仕方が悪かったか、妻の頭の悪さが遺伝したのだろう、ということなのでしょう。

本能的に母親というものは、わが子の〝よさ〟を理解するものです。頭は父親ほどさえていなくても、器用さとか、心のやさしさとか、人間としての〝よさ〟をわかり、愛するものです。

それが夫の〝頭の悪いのはお前に似たんだ〟のたぐいの無言の叱責で、大きくゆがんでしまうのです。

子どもは父親、母親両方の責任で育てるものですし、両方の資質を持っています。それを成績が振わないというだけでうとんじるような父親こそ、非難されていいはずです。

無心の赤ちゃんを一生懸命追いかけるお父さん、いまと同じ気持を、子どもたちにずっとずっと持ち続けていてください、と祈るような気持でいます。

（松屋銀座コンサルタント）

三割が男性!?

応募者どっと消費生活アドバイザー

消費者と企業との橋渡しをする「消費生活アドバイザー」=十一月十日号既報=の第一回認定試験が十一月三十日、東京、大阪で行われた。一定の点数をとれば何人でも合格、性別や学歴、高年齢のハンディもなし、企業の門も開けそう、と中年の家庭主婦にとって格好の門戸と思える制度とあって、応募者も予想を上まわる二千四百人。ところがこれまた予想外のことは男性の受験者が多かったことで、約三割が男性。企業の消費者担当課員など、いわば消費者問題のプロのほか、定年直前の〝会社役員〟も——。再就職のために資格をとっておこうということらしい。さあ男性陣のこの攻勢に、女性陣がどのくらいの成績をとるか——。一月末に二次試験があり、結果は三月にはわかるはず——。

特選羽子板市

伊勢丹（東京新宿）では一月六日まで、特選羽子板市を本館六階で。伝統ある工芸メーカーによる羽子板、凧、独楽などを取りそろえた。お正月を楽しく飾ろうという人のため。破魔弓で二万～三万円が中心。人形売場に隣接して特設コーナーを設けている。

名作絵本展

東京都中央区銀座四丁目ミキモト本店で25日まで。入場無料。都立日比谷図書館所蔵のものを中心に内外の名作絵本一一〇点を展示する。日本に一冊しかないビアトリックス・ポッターの私家版「グロスターの仕立屋」、ウオルター・クレインの「赤ちゃん自身のイソップ」など。

女性の戦後史 ⑨

1962年（昭和37年）
▽日韓会談反対全国婦人集会（12月10日）。
▽大学文学部における女子学生の比率、全国平均で37%。
▽「女子学生世にはばかる」暉峻康隆（『婦人公論』）「女子学生亡国論」池田弥三郎（『婦人公論』）
▽総評主催、物価値上げ反対・高校全入請願主婦の集会。
▽近藤鶴代、国務大臣（科学技術庁長官）就任。
▽野村証券キーパンチャー、飛びおり自殺、キーパンチャーの問題が顕在化する。
▽名古屋地裁、交通事故の損害賠償請求訴訟で看護のため主婦労働に従事できなかった期間の損害賠償を認める。
▽主婦連「不当景品類及び不当表示防止法」成立に運動。
▽全国的に看護婦不足問題が深刻化、日病・日看の協議会開く。
▽東芝、女子二交替制しく。
▽女子紡績労働者求人難となる。
▽このころから、合理化による職業病が増えはじめる。
▽文部省、教育白書「日本の成長と教育」発表。
▽高知県下の被差別部落の小・中学生100余名、中学校長の部落差別問題をきっかけに同盟休校。

1963年（昭和38年）
▽戦没者等の妻に対する特別給付金支給公布＝4月1日施行（3月29日）。
▽第5回婦人週間（4月10日～14日）　スローガン「みんなの社会的良心が住みよい明日を築く」
▽米原子力潜水艦寄港に多くの婦人団体が反対（5月～6月）
▽第1回消費者大会が日本消費者協会の主催で主婦ら約3500名を集めて開かれる（5月13日）。
▽「日本婦人平和協会」が「婦人国際平和自由連盟日本支部」と改称（5月26日）。
▽物価をおさえる婦人集会（7月4日）
▽老人福祉法公布＝8月1日施行（7月11日）。
▽第9回原水禁世界大会、社会党、総評のボイコットで分裂（8月5日）。
▽第9回日本母親大会、平和の問題で意見不統一（8月24日から）。
▽久米愛、第18回国連総会に代表代理で出席（9月）。
▽主婦連創立15周年記念大会（10月15日）。
▽物価値上げ反対婦人のつどいが日比谷野外音楽堂で開かれる（11月16日）。
▽第30回衆議院議員総選挙で婦人7名当選（11月21日）。
▽ケネディ米大統領暗殺、ジョンソン副大統領昇格（11月22日）。
▽第三次池田内閣が成立し、近藤鶴代科学技術庁長官となる（12月9日）。
▽5月現在、特殊児童数107万人（小・中学校全生徒の6%）となる（精薄児の就学率は7%）。
▽信託銀行の女子行員、全行員の50.5%を占める。
▽農家の主婦で家計管理者となっている者50%（1950年より）。
▽厚生省「児童福祉白書」で婦人労働の進出傾向にともなう母親の保育努力の欠如指摘、母親による保育強調。
▽サリドマイド剤、製造販売中止。
▽正しい看護を進める運動が静脈注射事件以来起こる。
▽厚生省、70年までに看護婦5万人の確保を打ち出す。
▽全医労、人事院に「国立病院、療養所に勤務する看護婦助産婦の夜勤制度に関する行政措置」提出。
▽医労協、看護婦問題についての方針で病院、地域に保育所設置を掲げる。
▽日本婦人会議世話役によって憲法を守る集会を開催される。
▽無認可保育所連絡協議会結成準備会が東京で行われる。

1964年（昭和39年）
▽風俗営業等取締法改正（深夜喫茶規制等）について要望（6団体）（2月18日）
▽深夜喫茶廃止期成要望大会が都市センターで（2月28日）。
▽保育所要求全国婦人大会（2月29日）。
▽第16回婦人週間（4月10日～16日）テーマ「現代社会における家庭の問題」
▽第9回婦人の中央集会、総評・中立系と共産党系と分裂（4月19日～20日、4月26日～27日）。
▽主婦連から脱退した三巻秋子、消費科学連合会結成（6月20日）。
▽母子福祉法公布、即日施行される（7月1日）。
▽政府、米原潜の日本寄港受諾を通告（8月28日）。
▽米原潜日本寄港に婦人団体の反対高まる（8月～9月）。
▽久米愛、第19回国連総会に代表代理で出席（9月）。
▽全国教育女性連盟創立＝会長・波頭久子（9月26日）。
▽第18回オリンピック東京大会開催（10月10日～24日）。
▽日本退職女教師連合会創立＝会長・大橋広（11月8日）。
▽池田内閣総辞職、佐藤内閣成立（11月9日）。
▽第1回国際婦人科学者技術会議＝ニューヨークへ五名出席。
▽文部省、養護学校設置を都道府県に義務づける。
▽全国初の看護高校、横浜に設立。
▽中国電力、キーパンチャーの25歳定年制提案、労働組合の反対に合い、世論もたかまり撤回。
▽新潟地震。新潟の看護婦、保健婦、救療防疫活動に挺身。
▽婦人国際平和自由連盟日本支部、中国の国連加盟承認を要請。
▽保育所要求全国婦人大会

化粧品を正しくお使いいただくために

化粧品は、ご自分の肌を知り肌にあったものを選び、健康な肌に使いましょう。とり扱いの注意を守って、目的にあわせて適量を正しく使いましょう。

使いはじめたら続けて最後まで使いましょう
化粧品には品質が変わらないよういろいろ工夫がなされていますが、とくに高温や極端に低温のところに長時間おいたり、1度開封した化粧品を長期間保管したりすると、分離したり匂いが変わったり、変質しやすくなります。いったん使いはじめた肌にあった化粧品は、途中でやめずに最後まで続けて使いましょう。もし季節化粧品などが残ってしまった場合は、次のシーズンまで容器の口もとをよくふいて、キャップをきちんとしめてから日のあたらないすずしい場所に保存してください。

手や指は清潔でしょうか
化粧品はきれいな手指でお使いください。いったん手やコットンにとった化粧品を、多すぎたからと容器の中に戻すことはありませんか。こうしたことが重なると、化粧水が濁ったり、クリームが変臭したり、中味の変質を招くことがあります。化粧品の出し戻しはやめましょう。

キャップはきちんとしめていますか
使用後、キャップをあけ放しにしておくと、水分やアルコール分などがとんでしまったり、空気中のホコリや雑菌が入って中味が変質しやすくなります。使ったあとの容器は口のまわりをきれいにふき、きちんとキャップをしめるように習慣づけましょう。また、乳液のキャップをまちがえて化粧水の瓶につけたりすると、濁ってしまうこともあります。

資生堂 広報室
〒104 東京都中央区銀座7-5-5 TEL 03(572)5111
〒541 大阪市東区北浜3-6(京阪淀屋橋ビル7階) TEL 06(202)5071
〒450 名古屋市中村区名駅4-3-28(資生堂名古屋ビル) TEL052(561)4301

サランラップ®
ちょっとリッチな 5個セット
スープカップ プレゼント
しめ切り:12月31日

あったか〜いスープの香りひろがる。
抽選で2,000名様
スープカップ5個セット(ソーサー付)クリーム色

●残念プレゼント 10,000名様
新しいタイプのスチロール樹脂製コップ
カプレット
5個入×3パック

景品 ●スープカップ(ソーサー付5個セット) 2,000名様 クリーム色・ノリタケ製 ●カプレット(5個入・3パック)10,000名様 レジャー・パーティ用に手軽で便利なプラスチック製コップ。
応募方法 サランラップ®(20m巻)の赤い矢印のついた《切り取り部分》を2枚1口として封筒に入れ、住所・氏名・年令・電話番号をご記入のうえ、お送りください。《切り取り部分》を2枚1口として抽選いたします。一度に何口分かをまとめてお送りいただいても構いません。
応募先 〒100-91 東京中央郵便局 私書箱第722号 サランラップ・プレゼント係
応募期間 昭和55年11月15日〜12月31日(当日消印有効)
抽選方法及び当選発表 期間中2回(12月8日・12月31日)にわけて締切り、警察官立会いのもと厳正な抽選を行い、各回とも当選者 スープカップ1,000名様・カプレット5,000名様を決定いたします。(2回分当選者総合計12,000名様) 当選発表は、景品の発送をもってかえさせていただきます。

蟇目 良

サランラップはハイバリヤー
(切り取り部分) 2枚1口としてお送りください。

旭ダウ株式会社
サランラップ販売株式会社
東京／〒100 東京都千代田区有楽町1-7-1(有楽町電気ビル) TEL 03(507)2868 大阪／06(347)3993 名古屋／052(201)6522 札幌／011(221)1259 福岡／092(721)7281
サランラップは旭ダウの登録商標です。

けっこんひろうえん

華麗なる演出

暮地雅子

（セレモニーコンダクター）

アナウンサー（札幌テレビ）としてDJ、生ワイド番組のアシスタント　映画会のショーの司会　インタビューなど幅広いジャンルで活躍し、結婚式の司会業に転身。セレモニーコンダクターとしてすでに七五〇組の結婚式の司会をこなした。女性ではこの道の草分け。

要は〝心〟なのです

多彩な日本の結婚式！　神前、仏前、人前そして

師走ともなると、気の早い店先に、クリスマス・ツリーと門松が同居するという奇妙な光景が見られる日本。紋付ハカマの新郎と打掛姿の新婦がワーグナーやメンデルスゾーンのウエディングマーチで入場、ウエディングケーキに入刀、運ばれてくる料理が中華といった披露宴があるのも、これまた日本ならではのことでしょう。

さて、挙式の方法には、神前、仏前、キリスト教式、人前とさまざまな形式がありますが、現在では、神前結婚式が大半を占めています。これは宗教的な儀式としてよりも、日本人の先祖としての神の前で、二人が誓うという意味が強いためでしょう。今日行なわれているような神前結婚式の始まりは、明治時代に入ってからだと言われています。式次第は、既に皆さんご存知と思いますので、今回は他の挙式について紹介しましょう。

仏前結婚式は宗派によって、式次第の相違があります。そこで、東京のT寺の例をとってみましょう。まず、新郎・新婦と仲人夫妻が、参列者一同が待つ中を入堂します。続いて、司婚者（僧侶）が入堂し、本尊にむかって合掌。一同も合掌します。司婚者は、仏前に敬白文（けいびゃくもん）を読みあげ、結婚式が行なわれることを、仏に報告し、新郎・新婦に、赤と白の念珠（ねんじゅ）が授けられます。司婚者が司婚の辞を述べ、新郎新婦に誓いを求め、二人の「誓います」の返事の後、参列者に婚儀の成立を告げます。新郎・新婦は、焼香卓の前に進み、一礼して右手で香をつまんで香炉にくべ、合掌します。そのあと、三々九度にあたる「誓杯」が、新郎・新婦によって行なわれ、一同で祝杯をあげます。司婚者が、新しく夫婦となった二人に、これからの生きる道を説き、全員で合掌、式が終了します。

キリスト教結婚式は、ロマンティックな雰囲気に魅せられるカップルが増えてきた昨今、多くの教会が信者以外でも、挙式をしてくれるようになってきました。別荘地などの教会まで出かけて挙式し、披露宴は自宅近くの会場で、という人も多いようです。プロテスタント系の挙式の場合、全員が待つ中を、新郎がベストマンにつきそわれ、ウエディング・マーチとともに入場します。続いて、新婦がブライドメイドにつきそわれ、バージンロードを聖壇へと進みます。そして、列席者全員が讃美歌を斉唱。牧師が聖書の中からあらかじめ選んでおいた章を朗読します。続いて、牧師が祈りをささげるので、全員ともに祈ります。そして、牧師が、聖句から引用した新夫婦に対する戒めの言葉を与え、誓約式に入ります。牧師の仲立ちで、新郎・新婦は永遠の愛を神に誓い指輪交換。牧師は、新郎・新婦の手の上に自分の手を重ね祈祷します。そして、結婚の成立したことを宣言して誓約式を終えます。ここで全員が讃美歌を歌った後、ウエディング・マーチとともに新郎・新婦は腕を組んで退場、チャペルから二人が出る時、全員が米や花のシャワーで祝福します。花嫁は手にしていた花束を投げ、それを一番先にとった女性がその次に結婚式をあげられる幸運にめぐまれる、という言い伝えもあります。日本では、次に幸せになってほしい仲のよい友達に、新婦が後で手わたす場合が多いようです。

八芳園内のチャペル前にて

人前結婚式は、定まった信仰を持っていない人たちにとっては、大変、合理的な方法です。また、両家が信仰を異にした時の打開策にもなります。

東京の近郊に住むYさんの両親は熱心な信者で、息子の結婚式は絶対に仏前結婚式だと主張したのですが、新婦側は神前結婚式を主張。当事者の新郎・新婦は困り、解決策として人前結婚式で話がまとまりました。神仏のように形の無いものではなく、自分達がふだん世話になっている人たちの前で、二人は結婚の決意を示しました。

家族や親族だけしか挙式に参加できないのと違い、人前結婚式は、友人、知人も挙式に参列することができます。また、形式が自由ですので、どのようにもすることができます。披露宴会場で人前挙式の後、そのまま披露パーティという場合が多いようです。

Yさん（前出）の例をとってみましょう。まず、新郎・新婦、媒酌人が入場します。司会者が開式のことばを述べた後、新郎・新婦は一緒に誓いのことばを朗読。そのあと、媒酌人ご夫妻の助けをかりて、指輪交換、婚姻届けに署名をしました。続いて、証人として媒酌人ご夫妻も同様に署名。司会者の閉式の言葉で人前結婚式は終了、そのまま披露宴へ。挙式と披露を合わせて約二時間ですませてしまうので、バラエティに富んだ内容になります。

神前・仏前・キリスト教式・人前と、日本にはさまざまな挙式がありますが、二人の心がしっかりしていれば、形式は、どうであってもいいはずです。信ずるものにむかって誓えばいいことですから。普段着のままで、近くの神社へ行き、おさい銭を投げて、二人で結婚を神に誓いその足で区役所に入籍をしにいったカップルもいます。新郎・新婦の結婚生活のスタート点としての意義のある挙式が増えてほしいものです。

次回は「スピーチについて」です。どうぞ、お楽しみに!!

（第四回）

〝母のあしおと〟続いて〝自分史〟

柏崎市　婦人大学セミナーの10人

労働省の賞も受け

50の手習いならぬ文章

新潟県柏崎市の中央公民館の婦人大学セミナーに集まった婦人たちが、女性史を研究しているうち、身のまわりの、庶民の婦人の歴史を記録しようと、自分たちの母の歴史を書きつづり、この記録文集を「母のあしあと」という本にまとめた。書き手はほとんどが五十すぎの、中年から初老の婦人たち。本はおろか、まとまった文章を書くのもはじめてという人ばかりだ。何度も書き直したが、印刷に入ったあとも、「恥ずかしい」「やめよう」という声があがったことも…。おそるおそる出した本だが、大きな反響を呼び、この活動が、今年春、労働省が募集した「婦人の10年と私たちの活動」に入選した。そしてこの十一月、「母のあしあと」に続いて、自分の母の歴史として書きはじめた〝自分史〟が完成「わたしのあしおと」として出版した。「母のあしおと」を出版したころ耳に入ってきた〝恥ずかしげもなく…〟〝母の苦労を金にかえている…〟といった、周囲の心ない悪口、雑音も、賞をとったということもあって、今年の「わたしのあしおと」のころは、すっかりかげをひそめたとか。いま、執筆した婦人たちは、新たなメンバーも加えて（出来ればもっと若い人に入ってもらって）、今後、本格的に女性史の勉強にとりくみたいと思っている。

「母のあしおと」「わたしのあしおと」執筆者たち前列向って右から２人目

この活動が始まったのは昭和五十年のことだった。国際婦人年を機に柏崎中央公民館の婦人大学セミナー、女性史コースが発足することになり四十人ほどの婦人が参加した。まず、郷土史の中の女性を調べたところ、ごく少数の女性、それも、新潟のことばでいうまちの〝おもだち〟といった、指導者階級の婦人の記録しか残っていないことがわかった。そこで、身近な庶民の女がどう生きたかを調べようということになりもっとも身近な、自分の母のことを調べ、書こうということになった。実際に作業にとりかかったのは五十一年。そんな中で何人かが脱落して行った。ふつうの文章を書くのでさえ、馴れない人にはなかなかおっくうなことである。まして〝自分の母の歴史〟ともなると、自分の生皮をはぐような気もち、思い出したくないことを白日にさらす、という面も出てくる。三十歳くらいの若い人の中には、〝あまりにも関係者が元気に生存しすぎている〟ということもあって、やめて行った人もいた。指導にあたっていた山田良平さん＝柏崎日報記者、郷土史研究家＝が途中で死去するという思わぬ出来ごともあり、何度か中断の危機もあったが、柏崎公民館の徳間助夫事務長や田辺ゆき子事業係長の激励で、乗りきった。

こうして、まる二年がかりで十人の主婦が、母の歴史をまとめた。柴野和子、種岡敏子、五十嵐静江、斎藤富士枝、佐々木和子、品田シイ子、霜田一子、前沢敏子、徳間多律子、中村敏子の十人、四十代二人、五十代四人、六十代四人。メンバーは皆忙しい。子育ては終ったが、大ていの人が、自営、行商、パートなど仕事をしているから〟。一ヵ月に一度、土曜日などに集まる。何とか時間をやりくりして大体メンバーが揃う。講師の鈴木清一氏（新潟日報柏崎支局長）のアドバイスのもと、作品を読みあわせ、批判しあい書き直す。執筆の時間は家事や、〝商売〟の終わったあと。夜中の一時、二時になることもある。経費はいっさい自弁。補助はどこからも一銭ももらっていない。

こうして二年。三回も四回も書き直して出版しようという話になった。母の歴史を、印刷して多勢の目にさらすわけである。メンバーはまた迷い、苦しんだ。文章にも自信が持てないという人も多かった。が、セミナー関係者の、雪国の庶民の女の下積みに甘んじながら生きぬいた姿を、多勢の人に読んでもらうことこそ意義がある、というたってのすすめに、ついに印刷にふみ切った。発行部数千部、「母のあしおと」というタイトルにした。

反響は大きかった。新聞にもとりあげられ、新潟県内からはもちろん、アメリカの大学図書館からも注文が来た。

すばらしい、郷土史の一面を担なう大事業と励ましてくれる人も多かったと反面、一方で心ない悪口も耳に入った。家庭の中からも、批判する声があった。が、さまざまなためらいを乗り切ってここまで来たメンバーにもう動揺はなかった。文集の完成でお互いの連帯感も一段と高まった。

自分を書く難しさ

次は本格的な女性史を

グループは、こんどは自分の記録の執筆にとりかかった。二回目だし、自分のことだから、楽だろうという気やすさがあったのだが、はじめてみると大変だった。子供のころの思い出などはスラスラと書けるが、結婚、子育てなど、人生の機微を含む出来ごととなると筆がにぶる。なまなましすぎ、さし障りがありすぎる。自己を見つめるうち自己嫌悪に陥ることもあった。鈴木清一氏の助言で、三度、四度も書き直し、このほどようやく完成「わたしのあしおと」として十一月に出版までこぎつけた。「母のあしおと」の十人全員が執筆したほか、婦人大学セミナーの育ての親で脇から協力していた公民館の田辺ゆき子事業係長自らも執筆して、十一篇の記録となっている。

〝自分史〟の作業のまった中、ことしの五月、労働省婦人少年局が「婦人の十年中間年を記念して募集した「婦人の社会参加」の事例で入選（四十四例、一県から一篇が入選）した。こうした対外的な評価もあって、今度の「わたしのあしおと」の出版では、前回のような非難や中傷はほとんど聞かれず、〝売れ行き〟も順調である。メンバーの五年間の努力で、家族や世間の理解が深まって来たこともある。

グループはこんどは本格的に女性史を学習したいと考えている。

んほ

小児病棟

江川晴著

田辺ゆき子公民係事業係長、同４人目が指導の鈴木清一氏

第一回読売「女性ヒューマンドキュメンタリー」優秀賞、佳作賞を集めた本。優秀作受賞作の「小児病棟」のほか、佳作の「しおなあら」（河内信子）、「わが屋根の下」（唐沢英子）、「流れの糸」（伊藤由紀子）の三篇が収められている。二千百十三篇もの応募作があったそうで、女性の〝書く層〟の増え方に驚かされるが、多くの中から選び抜かれた作品だけに力作ぞろい。それぞれに人の心をうつ。大賞該当作はなく、優秀作と佳作の三篇ということだが、素材の面白いものが多く、読ませる作品ばかりである。

心打つ力作ぞろい

女たちの〝人間の記録〟

「小児病棟」の作者は、現職の看護婦。それだけに、一般の人は全く知らない重症の小児病棟の中のこと、看護婦間のかっとうなどを描き、本を措かせぬ面白さがある。主人公の若い看護婦が理想的に描かれすぎてあり、ドキュメンタリーというよりむしろ小説の面白さに近いが、作者の知りつくしている世界を描く強味がある。

「しおなあら」は〝英語（ことば）を運んできた男〟という副題がついている。女性を描いたものではないが、好作品なので、特に佳作に加えられたという。この作品の主人公ラナルド・マクドナルドはペリーの来日の六年前、鎖国中だった日本にもぐりこみ、はじめて生きた英語を伝え、また、日本語を学ぼうとした人という。よく調べぬかれたドキュメンタリーだが、ラナルドの父母の記録や少年のころにも触れているのに、日本を出国してからの記述が少く、日本がラナルドにとって何だったのか、彼の日本語研究が、後につづくものにどの程度の影響があったのか、全くわからないのが少々ものたりない。

「わが屋根の下」は〝自分史〟である。恐らくこのドキュメンタリー主催者側は、この種の、女性の自分自身の人生を描いた平凡でしかも心うつ生き方の記録を一番望んでいたのではないかと思う。ただしこの作者の人生は尋常一様ではない。波乱八丈、七転び八起きのたくましいものである。ユーモアをまじえカラッとした筆致で、かなり深刻な場面もじめつかない。文章も巧みで一気に読ませる。

「流れの糸」は素材も面白く、調査も丹念である。小淵志ちという、作者の生れ育った豊橋市で製糸工場を起し、愛知県三遠地方の〝玉糸〟の恩人として、かつて豊橋では有名な人であった。もう、五十年も前にこの世を去ったこの女性のあとをたどって作者は調べまわる。やがて明らかにされる志ち像は、読者の共感と感動をよぶ。群馬県の貧農に生まれ、文盲だが、天性の器用さで腕ききの糸くり女工になりながら、酒乱の亭主にさいなまれる若いころ。三十をすぎて初めて愛する男が出来て駆け落ち、豊橋で、糸くりを教え、ここで落ちつき、工場を建て、〝玉糸〟という新しい技術を考え、この地の製糸業の繁栄を招く。大経営者となってからも、女工たちと同じような生活ぶりで、したわれるさまなど——。しいたげられた時代の女の哀しさと強さをそのまま見せるような生き方である。愛人徳次郎（すでに妻子がある＝戸籍上他人）の描き方などきれいに書きすぎている感はあるが明治にこういう女性もいたのか、と改めて感嘆させられる。（読売新聞社　九八〇円）

ボランティア

青年を募集

社団法人日本青年奉仕協会（茅誠司会長）が、今年も、五十六年四月からボランティアに参加できる青年を募集している。計画には「VOLUNTEER365」（一年間ボランティア）と「VOLUNTEER30」（一ヵ月ボランティア）の二種類がある。

参加できるのは十八歳から三十歳までの人で、政治、思想、宗教、信条にかかわらず、報酬を求めず自発的に人々のために貢献したいという情熱がある人。一ヵ月間の研修もしてくれる。

活動内容は、体の不自由な人、メンタルな障害のある人たちの生活の向上、おとしよりや子どもたちの指導、援助など。

締め切りは十二月末日で、一月末に面接選考で決定する。四月からボランティアは一ヵ月間の事前研修を受け、五月一日から活動が開始される。

問い合わせは、社団法人日本青年奉仕協会　〒151東京都渋谷区代々木神園町三の一　国立青少年センター内　☎03（460）0211～2。

宝石のような名作

東京こども映画ホール

子どもたちに夢と力を与えるため世界中に散らばっている宝石のような映画を集めよう、そんな考えでスタートした「東京こども映画ホール第一回試写会」が十二月二十六日午後二時から新宿紀伊国屋ホールで開かれる。ここは日本唯一のこども映画の上映スペースであり、今後も続けられる試みの皮切り。

第一回の上映作品は「長くつしたのピッピー」スウェーデン映画、岸田今日子、劇団雲が声の出演。北欧の明るい白夜の中でくりひろげられる世界一つよい女の子と、お猿のニールソン君、馬のおじさんたちの夢と冒険の世界。

「名作児童映画の全国上映ネットワーク・東京こども映画ホール事務局」。会費は大人小人共通五〇〇円。問い合せと電話予約は「東京シネクラブ　☎207—0795」。席はすべて電話予約による。

「母のあしおと」「わたしのあしおと」についての問合せは、〒945　新潟県柏崎市新花町一〇—二九　柴野和子さんまで。

みんな同じ空の下

——わたぼうしコンサート——

〝障害者年〟にむけ東京公演

みんな同じ空の下に生きている——を合言葉にボランティアの手でハンディを持つ子どもたちの詩をフォークのメロディにのせ、ユニークな活動を続けている「わたぼうしコンサート」第四回東京大会が、十二月二十五日（木）に学習院記念会館で開かれる。

来年は「完全参加と平等」を謳う国際障害者年であり、ハンディを越え、地球上のすべての人が共感の輪をひろげることが望まれるわけで、「わたぼうし」の使命も一段と重い。

このコンサートが誕生したのは昭和四八年。その後、北海道から沖縄まで三百を越える各地で開催され感動を呼んできた。

今回の東京大会は、これまでのように、生きる支えとなる詩の数々を音楽をとおして発表するだけでなく、岡山県で埴輪（はにわ）づくりに励む『たけのこ村』のチエ遅れの青年たちの作品展をパリで開くための募金や、カンボジア難民の子どもたちの描いた「絵本（ユネスコ刊）」の普及なども仕事の一つとしている。

来年に向けて全国的に募集した「国際障害者年キャンペーン組曲」の発表、来年八月に予定している「世界わたぼうし音楽祭」のアピールも。

コンサートはすべて手話通訳がつき、ボランティアによって開発された「ミニハンディキャップ」の展示と運行も計画されているが、こうしたすべてはボランティアによって運営されている。

開演は〈昼の部〉一四・〇〇～一六・〇〇〈夜の部〉一八・〇〇～二〇・〇〇

問合せは——〒151渋谷区代々木神園町三—一　OMYC内　ボランティア活動センター気付　全国わたぼうし音楽祭運営委員会（460—1399 4、0211）

お買物は
ばらの包みの
タカシマヤ…
髙島屋
東京・大阪・京都・堺・和歌山・横浜・玉川・立川・大宮
柏・岡山・米子・泉北・今治・岐阜・高崎・津田沼

健康の種を播き、おいしく、大きく育てます。

健康で豊かな生活は、良い食生活から。日清製粉は、1900年の創業以来、つねに品質の保証・向上に万全を期した製品をお届けしてきました。少しのまちがいも許されない食品には、総合的基礎研究に立って、最新鋭設備を駆使し、厳しい品質管理が必要です。いま、日清製粉グループは、総合食品メーカーとして、さらに豊かな食生活の実現をすすめています。皆さまの信頼におこたえする、責任ある製品を絶えずお届けし、理想的食生活の環境づくりに、いっそうの努力を続けます。

健康で豊かな生活を…　日清製粉グループ　日清製粉

日清飼料・日清畜産センター・日清ペットフード・日清ハム・日清フーズ・日清ディー・シー・エー食品・マ・マーマカロニ・日清化学・日清製薬・日清エンジニアリング

化粧品はこうして造られる

一つの化粧品はどのようにつくられ、消費者の手にわたるのでしょうか。資生堂研究所第一製品研究所の尾沢達也室長に聞いてみました。

すぐれた化粧品を生み出すにはまず、皮膚そのものの構造や性質をよく理解し知ったうえで、化粧品を使った時に、どのような影響があるかを調べる皮膚生理学的基礎研究が欠かせませんし、さらに使用する原料を精製して不純物を取り除いて、安全性を高める研究もくり返しています。

また、化粧品はカビや酵母、バクテリヤなどの微生物によっても変質しやすいものですから、これに対する配慮や化粧品の生命の一つである香りについても、調香師の独創的な芸術と科学的研究をとけあわせる高い技術が必要です。

こうした数々の基礎研究と応用研究が積み重ねられて、はじめて製品化へと研究が進みますが、一つの化粧品について、基礎研究は最低二年から十年という長い年月をかけ完成されます。

こうして開発された試作品は、まず動物を使って、皮膚、目、口に入った場合などの刺激性や毒性のテストが行なわれます。

このように厳しいテストをパスして、設計された処方によって、工場では原料の厳重なチェックと滅菌から生産活動が始まります。

例えば水性成分と油性成分からなるクリームは、各成分が適当な温度で溶かされ、製造釜で乳化、さらに細かく均一的な乳化粒子とするため、ホモジナイザー（カクハン器）にかけられたあと冷却されて出来上がります。その間、フタのしまり具合、ゆがみ、容量などが検査された容器がエアクリーナーで洗浄され、ハイスピードで一定量のクリームが詰められ、続いてキャップがしめられ、ラベルが貼られます。これらがすべて正確にいっているかどうか、製品は全数チェックされて箱詰めされます。

また、肌の弱い人のための敏感肌用化粧品は、微生物の汚染を防ぐため、すべて滅菌された充填仕上げ室で、滅菌服に身を固めた作業員によって作られるという細かい神経が使われて生産されています。

こうして完成した製品は、さらに色、香り、のびなどの官能検査をパスして、はじめて製品として世に出ます。

一方、微生物試験室では、製品の定期的な抜きとり検査を行うなど、定期的に安全性の安定性のチェックが繰り返し行なわれています。

つまり、よい化粧品の条件は安全性（皮膚に使用しても安全であること）、機能性（目的に応じた機能を十分に発揮すること）、使用性（使いやすい、扱いやすい商品であること）、嗜好性（使う人の好みにマッチしていること）、安定性（品質が変わらないこと）など五つの条件がバランスよくそなわっていることです。

このようにして作られた化粧品を、最後まで上手に使うために、使ったあとの容器のキャップはきちんとしめて、一定温度の所に置くことなど、使う側の注意が必要です。（資料提供　資生堂）

スウェーデンの歴史にみる

教育の平等が女性を解放

プログラムを確立

学習の性別選択を排し

「教育が女性を開放した」と語る女史

高齢化社会の問題、男女平等問題は、日本の社会問題であるとともに、女性一人一人の問題として取り上げられているが、福祉や男女平等政策では世界のトップ国といわれるスウェーデンから二人の講師を招いて「高齢化社会を考える―スウェーデンの高齢者福祉及び女子生涯教育をめぐって」のシンポジウムが先ごろ開かれ注目された。

「正しく理解し批判すべきところは批判し、互の前進向上のために役立てることができたら……」という主催の福祉都市研究会代表取締役・三宅俊治氏の挨拶どおり、学ぶことの多いシンポジウムであったが、今回は「女性を独立、開放させてくれるのは教育である」と説き、教育の中で性による差別をなくすよう努力しているスウェーデンの教育の歴史を取りあげたブリジッタ・ウィストランドさん（情報担当官。イエーテボリイ社会福祉局広報事務官、情報担当官及び厚生省秘書官を経て現在、フレードリカ・ブレーメル協会会長。情報、平等問題、医料問題に関する記事論文も多い）の講演「活動するスウェーデンの女性たち」と分科会「女子生涯教育」にスポットを当ててみた。

「スウェーデンにおいて、女性が独立、開放される条件というのは、適切な教育であると言えるでしょう。良い教育は労働市場において、女性が競争できる能力を与えてくれます」というB・ウィストランドさん。

スウェーデンでは一八四三年に六年間の義務教育制が敷かれた。これによって多くの女性たちが教育を受けられるようになった。

一九二〇年の初期から、九年間のベイシック・スクールにおける義務教育の内容は統一され、そうした教育を受けた後にセカンダリー・スクールに進む。そこでは理論や職業的なものを四年間学び、大学へというのが一般的なスウェーデンの教育システムである。教育費は大学まで総て無料。授業料のみならず、学生が学ぶ間の生活援助もいろいろある。この援助によって、多くの女性が十分に教育を受けられるようになったことは言うまでもない。

しかし、ベイシック・スクールの後半の三年間には数学と英語のスペシャルコースと選択課目としてフランス語、ドイツ語、手工芸などいろんな課目があり、その中から生徒たちは自分たちのスタディ・プランによって選択することができる。その選択傾向を見ると女子は数学より語学を選び、また技術的なものを選ぶ人は少ない。手工芸になると男子は木工、女子は織物というふうに、まったく同じ教育を受けたにもかかわらず、選択科目になると性別が大きく影響していることは否定できないと。

さらに顕著に現われるのはセカンダリー・レベルで、男子三人のうち二人は科学や技術を、女子は人文学、社会学、自然科学、経済学などに配合され、テクニカルなものを選ぶ人は少ない。

「私たちの長年の均等教育にもかかわらず性によって職業を選ぶという傾向は根強い」という。

そこで、一九七九年に新しいカリキュラムがベイシック・スクールで採用された。それは性による差別をなくすための教育が基盤となっていて、技術とか経済学などは総ての人に義務となった。また保育とかドメステックサイエンス、ホームエコノミックスなどはここでは男女問わず学んでいる。

さらにベイシック・スクールの最終学年に行われる実際のフィールドでの実習では、従来の科目では、性によって片寄ったものになるということから、昔からの伝統パターンは除外するという徹底ぶりだ。

こうしたプログラムはナショナル・ボード・オブ・エデュケイションによって採択されたもので、エデュケイションアクト（教育法）の中には特別な項目があって、男女平等の促進が大きく謳われている。

「これ等を実現するには生徒、両親、先生側の態度の変化だけでなく、社会全体の変化が必要」とウィストランドさんは力説する。

男女平等の遂行のため教科書も注意深く検討され、性による偏見的なものは総て削除された。また教える側の教師の姿勢や態度によ

世界的な成人教育となっている、

っても差別観が植つけられるとして、現在、教師教育が問題になっているとも言う。

一九七七年には大学システムが再編成され、女性に多くの成果がもたらされた。入学規定が改正され、現在、雇用されている二五歳以上の者、五年以上育児に専念していた者には、中等教育を受けてすぐ大学へ進む人と競争することなく入学できるようになった。

さらに重要な変革として、主に女子学生によって占められていた学問分野で、かつては中等レベルの職業ステイタスしか与えられなかった看護婦、教師、研究室の技術員などの教育が格あげされて、大学システムの一環となった。これが意味するものは、今まで女性が支配して来た職業…キャリアを伸ばすという意味で先の見込みのないものだったが、今は高度な学問ということで開放されたのだ。

この改正意図はより多くの女性が、大学の学位を取ることを容認することにあったという。

「しかし、こうした変革が総て意図した様に機能しているわけではない」

というのは、入学規制は女性に不利になる場合がある。例えば男性は組織内、あるいは勤務の経験から女性より多くの、入学する条件を稼ぐ傾向がある。現在この改定を要求しているのだと。

「また、大学の教員や大学院の生徒の数の少ないことなど、さまざまな問題はありますが、多くのスウェーデンの大学で、女性の手によって行われている女性問題に関する研究は非常に画期的で、新しい視野を我々に与えてくれました。

かつて私たちが建設的、中立的な法と信じていたものを新しく見直す機会を与えてくれました」とウィストランドさんは胸を張って語った。

分科会

男性にも育児休暇

日本との違いまざまざ

ウィストランドさんを囲む分科会には、大学生、公務員、グループのリーダー、主婦、韓国の女教授など広い分野から二〇名ほどが参加した。さまざまな質問がウィストランドさんに向けられた。

今、働く日本の女性が最も頭を悩ませている出産と育児について「子供を持つ場合、スウェーデンでは非常に良い条件が与えられます。それは女性だけでなく男性も同じです。子供が九ヵ月になるまで育児休暇がもらえ、その休暇は両親が分けあって取ることになっており、実際に一五％の男性が取っています。もちろんその間の給料は全額支給されることはいうまでもありません。他に出産手当として四〇万、育児手当として一年に五〇万円が援助されます」と語る。さらに、この育児休暇を郵政局長や大臣クラスが取っていると聞いて「日本では考えられないこと」一同はびっくり。「日本では重要なポストにいる人が休んでも仕事がうまくいくということは、その人はそれほど重要な人間ではないと取られるが…」の質問に対しウィストランドさんは「誰もそれほど必要な人はない。自分がそれほど必要という考えをする方がバカバカしい」とサラリ。

一時金や産休時の給料は社会保険の一種である両親保険から支払われる。この両親保険には、この他一年に六〇月子供と過す日、子供が八歳になるまでパートタイマーで働き、仕事をキープしておくための手当などが含まれているという。子育ての一面を見ても分るとおり、たしかに福祉は充実しているが給料の八〇％が税金に消え、生活のための金がもっと欲しい、しかし福祉も欲しいと議論されているのがスウェーデンの現状だと。

女子の生涯教育というテーマから離れた内容になったが、福祉の面で満足いく分科会となったことはたしか。

絵本を愛する人が増えている。すべて手づくりで一冊の自分だけの絵本を作る人も……。このほど東京・八王子市教育委員会では「八王子手づくり絵本の会」や「八王子子ども文庫連絡協議会」の協力で市内在住の会員をはじめ、園児や児童、学生へと巾広く参加を呼びかけ、大丸デパート八王子店で「手づくり本展」を開いた。出品作品は六十一点。

自分だけの一冊を

八王子大丸　盛況だった「手作り本展」

母親の愛情こめて

子供に対する愛情が母親たちに〝世界でたった一冊の絵本〟を作る根気と熱意を与える。この展示会でも母親がつくった絵本の主人公は我が子であり、何かしら子供に関連した題材や、成長過程の記録的なものから、あるいは自分自身の歴史や願いを託している。

小阪芳子さんは、二百冊の絵本をかかえて結婚したというほど絵本が好き。展示会には三才の千絵ちゃんのために〝千ちゃん〟が主人公の絵本を作った。全然ちがった色紙を使い、しかも、さらにもう一枚折り込んで、くり抜いた穴から下の絵の一部分が見えるようになった手の込んだものまで。「子供は何が書いてあるのかのぞくのが好きなので、この形にしましたが朝方三時までかかってやっと完成したところ」とその充実感を笑顔にみせる。

『ごろう、おばけ森へゆく』は、三歳のごろうくんと母親の合作。内容は三歳の誕生日を目前にした〝ごろうクン〟がオバケ森に行ってオバケをやっつける話だが、ここに登場するオバケをごろうクンが担当。三歳といえばマルや線がやっと書けるぐらいだが、それを母親が巧みに絵本にまとめ上げている。

また、ある母親は「十二才の息子に送る」と題して、自分が十二歳だった昭和二十年の戦争体験を本にした。

昨年第一回の「手づくり本展」でやはり戦争体験を書いた渡辺和子さんは絵本を作り出した動機について

「自分というものは三代過ぎたら忘れられてしまいますので、自分自身の歴史を絵本としてまとめたいですね。いま一番描きたいのは、肉親の多くが海で死んでいますので〝海の話〟です」という。

今回は幼い頃、祖母から聞かされた今昔物語「猿の経文」だが、死んだ猿の顔色を聞くために、わざわざ多摩動物園に問い合わすほどの気の入れ方だ。

この展示会は昨年に続いて二回目で、すべて市内在住の人々。個人参加もあるが、ほとんどはグループを作って日頃から勉強してきた人が多い。その中心グループ「八王子手づくり絵本の会」（代表・中野那須音さん）が発足したのは昨年の七月だった。

これは市教育委員会が管轄する市移動図書館が、本の貸し出しだけでなく本の製本方法を一般市民に教える講習会を主催したところ誰からともなく「絵本をつくる教室」を開こうという声があがり、昨年の七月から活動をはじめてきた。現在、会員数は三十五名で月に一度集って絵本を作っている。

会員の一人、中村文子さんはこの秋に八王子に引っ越してきたばかりだが、たまたま近所同士になった中野会長に誘われて入会。すでに三冊も出品するほどの熱心さ。誰も知らない土地に引っ越してきた不安と淋しさは、この会のおかげで解消したようだ。中村さんのほかにもかって、絵の勉強をしてきた人も何人かはいるが、会員の多くは〝絵本が好きだから〟そして子供への愛情。内容を考え、絵を描き、表紙を作ってノリ付けまで文字通り〝手づくり〟で一冊の本をつくる。昨年に引続き今回も会場は来観者が跡を絶たず、「次の回は私もぜひ！」と意欲をみせている人も少なくないようだった。

愛児の空間。
子供は、むしろオトナより空間を必要とします。

無理のない運転で燃費節約を。

NINA RICCI
ランサーEX・ニナリッチデザイン好評発売中（1600XL-AT特別仕様車）
パリ・オートクチュールの名門ニナ・リッチがランサーEXをパリムードいっぱいにドレスアップしました。色はボルドーとシャンパーニュ。世界的なファッションハウスが手がけた初めての日本車。女性の夢にこたえる一台です。

実感①子供をもつとわかる室内の広さ。そういえば、子供って何でも車に持ち込みたがるね。というのが黒沢さんの声。子供が実証してくれるランサーEXのゆったりした室内空間です。広いシート。高い天井。大きな窓。そのどれもが室内空間の快適さをいっそう高めている、と言えましょう。家族がふえるうれしさを、いっぱいにうけとめてくれるランサーEXです。**実感②乗るほどにわかる燃費の良さ。**ランサーEXの思想は、燃費にも十分いきています。10モード14.0km/ℓ(1400の場合)という、すぐれた経済性です。加えて、長距離ドライブも疲れない安定感と静かな走り。ドライブも楽しくなる、ますます快調な、サンシャイントリオ。

広いから言える――明るいから言える――走れ、サンシャイン
ランサーEX 1400 1600 1800
●全長4,225×全幅1,620×全高1,380(mm)ホイールベース2,440mm(1400GL)●10モード燃費14.0km／ℓ(運輸省審査値)・60km／h定地燃費24.0km／ℓ(運輸省届出値1400cc5速)●車種：1400(SL・GL A/T・GL・GLエクストラインテリア仕様車・EL・ELベーシック仕様車)1600(GT・XL A/T・XL-5・XL・GL A/T・GL)1800(SE A/T・SE・GSR・GSRサンルーフ付)●写真は1400GL(ラジアルタイヤ、アルミホイールはオプション)
燃費の差は技術の差
三菱自動車